

2024年度

事業計画書

2024年 4月 1日から

2025年 3月31日まで

公益財団法人 豊田理化学研究所

事業計画の概要

2023年度は、新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが第5類へと移行し、ウィズコロナからアフターコロナへの対応が進み、豊田理化学研究所でも、豊田理研懇話会やフェロー研究報告会は、現地での講演とオンライン配信とのハイブリッド方式での開催が定着しています。一方で、異分野若手交流会は4年ぶりに全面的に対面の形にて、100名を超えるスカラー、メンターの参加により開催することができました。

助成事業では、新しいスカラー共同研究がスタートし、10チームがPhase1の共同研究を実施しました。また、新しいフェロー制度によるライジングフェローについては、将来有望な研究者を育てるため、研究内容のみならず先端研究分野を世界的に牽引していくことが期待される人物面も重視し、2024年度から助成開始する3名を採択しました。「海外大学院進学支援制度」では支援対象者をオーバーシーズ・プレドクトラル・フェロー(OSPDF)として、新たに7名が留学生活を始める一方で、2020年に留学を開始した1名が無事に博士学位を取得いたしました。

2024年度は、新しい研究助成制度を軌道に乗せる段階となります。スカラー共同研究はPhase1の共同研究を行った10チームの中から勝ち残った3チームがPhase2の段階へと進みます。ライジングフェローに採択した3名に対しては、4月から助成がスタートします。今後、5年間にわたって支援することで、若手研究者の育成に貢献していきます。「海外大学院進学支援制度」では、今後も引き続きより多くの優秀な学生を採択し、海外大学院での博士学位の取得を支援します。

2023年度は、引き続き半導体不足の影響による自動車生産の遅れがあったものの、トヨタグループ各社の好調な業績の元、豊田理化学研究所の収益は大幅に増加しました。2024年度、先行きは不透明な情勢ではありますが、トヨタグループ各社の堅調な業績を見込み、経常収益は、2023年度の実績並みを見込みました。一方、2023年度の経常支出は、前年度から若干の増加を見込んでおります。2024年度の経常支出は、助成事業の拡大により、2023年度実績見込み比約1割増の予算計画を立てております。

以下、各事業の具体的な計画を説明いたします。

1. 研究事業

1-1. フェロー研究活動

(1) フェローの状況と研究テーマ

2024年度の常勤フェローは、継続3名、客員フェロー継続1名で、表1、表2に記載したテーマについて研究を進めてまいります。

なお、常勤フェロー3名は、各大学の研究拠点にて研究を実施しています。

表1. 2024年度 常勤フェローと研究テーマ

在籍	氏名	研究テーマ
4年目	大谷 博司 (東北大学 名誉教授)	第一原理計算に基づく理論状態図の構築と準安定物質創成に関する研究
	田中 秀樹 (岡山大学 名誉教授)	柔軟な水素結合による水と氷の多様性の発現機構
3年目	前野 悦輝 (京都大学 名誉教授)	非従来型超伝導物質の研究

表2. 2024年度 客員フェローと研究テーマ

在籍	氏名	研究テーマ
3年目	瀧川 仁 (東京大学 名誉教授)	角度分解 NMR による電子系の隠れた秩序の検証

(2) フェロー研究報告会

フェロー研究報告会を2月に開催し、研究活動の成果を紹介いたします。集会方式とオンライン方式のハイブリッドで実施する予定です。表3に開催予定を記します。

表3. フェロー研究報告会

通算回数	実施年月	発表者	場所
36	2025年2月	・在任最終年 常勤フェロー、客員フェロー ・在任3年目 常勤フェロー	井口洋夫記念ホール

(3) 豊田理研ワークショップ

豊田理研が主催するワークショップは、フェローが中心となって、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与しようとするものです。

2024年度は、表4に示す1件を集会方式で実施する予定です。

表 4. 2024 年度 豊田理研ワークショップ開催予定

通算回数	実施年月	代表者	テーマ	場所
16	2024 年 12 月	大谷 博司 フェロー	合金状態図シンポジウム： 研究の最前線から見る未来の 可能性（仮題）	井口洋夫記念ホール +オンライン 50名 程度

1-2. 学術談話会の開催

1-2-1. 豊田理研懇話会

「最先端で活躍されている著名な先生をお招きして難しいことをやさしく話していただく」豊田理研懇話会は、豊田中央研究所の協賛で、研究事業の一環として年 3 回実施しています。広くホームページでも公開し、常勤フェロー、客員フェローの他、近隣の大学、研究機関の方々にも参加いただいて、活発な討議をしていただきます。2024 年度も 3 回開催する予定です。

1-2-2. 物性談話会

物性物理学研究者の啓発を図る事を目的に、2024 年度も名古屋大学と共催で「物性談話会」を 8 回開催いたします。表 5 に開催予定を記します。

表 5. 2024 年度 物性談話会開催予定

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2024 年 5 月	金沢大学 准教授 奥田 覚	細胞の非線形力学応答の物理
2	2024 年 6 月	東京大学 准教授 蘆田 祐人	非エルミート系の量子物
3	2024 年 7 月	上智大学 教授 大槻 東巳	共進化する物理学と人工知能の現在
4	2024 年 8 月	NIMS 理事 谷口 尚	ダイヤモンドや窒化ホウ素系物質の高圧結晶 成長と結晶化学および応用
5	2024 年 9 月	東京大学 准教授 辻 直人	超伝導と非平衡現象の理論
6	2024 年 10 月	早稲田大学 教授 勝藤 拓郎	強相関材料の軌道秩序とマルチファンクショ ナル
7	2024 年 11 月	東京大学 教授 高橋 嘉夫	地球科学・環境分野での XAFS 解析
8	2024 年 12 月	学習院大学 教授 宇田川 将文	厳密にとける Kitaev スピン液体モデル

1-2-3. 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供することを目的に、2024 年度も分子科学研究所と共催で「分子科学フォーラム」を 4 回開催いたします。

なお、「分子科学フォーラム」は例年同様、市民講座として一般の方々にも公開いたします。表 6 に開催予定を記します。

表 6. 2024 年度 分子科学フォーラム開催予定

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2024 年 7 月 3 日 (水)	桐蔭横浜大学 教授 宮坂 力	未定 オンライン
2	2024 年 10 月 19 日 (土)	分子科学研究所 所長 渡辺 芳人・教授 魚住 泰広 (一般公開特別公演)	未定 対面
3	2024 年 11 月 8 日 (金)	大阪大学 教授 吉森 保	未定 対面
4	1 月 20-24 日で 調整中	東京工業大学 教授 波多野 睦子	未定 オンライン

2. 助成事業

2-1. 豊田理研スカラー

2-1-1. スカラーの状況

博士の学位を有し、所属大学の推薦を受けた優秀な若手教員の中から、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方々を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

2024年度スカラー募集は、昨年度と同様の20大学（工学系研究科、理学系研究科、農学系研究科に加え大学付属の研究所）を指定校としました。更に一般応募枠も募集を展開しました。

外部委員6人の審査委員で審査を行った結果、89名の応募者の中から、表7に示す50名を採択候補として選定いたしました。

採択された研究者には1年間規定の助成金を支給すると共に、助成金獲得が実績となるように贈呈書を発行します。

表7. 2024年度 豊田理研スカラー採択候補者 … 50名

No	大学名／専攻		氏名	職位	研究テーマ
1	北海道	理	高橋 ローレン	助教	機械学習から脱却した触媒インフォマティクスによる合成・計測データが連動した不均一固体触媒の開発
2	東北	工	森 翔平	助教	ウェアラブル超音波による気胸検出モニタリング手法の開発
3			山本 壮太	特任助教	量子干渉で観る永久スピン巡回状態
4		金属	長田 礎	助教	ニッケル酸化物超伝導の量子臨界性に関する研究
5		学際科学 フロンティア	岡本 泰典	助教	多機能化バイオベシクルの開発
6		数理科学	谷地村 敏明	助教	正則化混合ガウス最適輸送理論による細胞分化の軌跡推定手法の構築
7	筑波	数理 物質系	宮川 晃尚	助教	分子クラウディング環境を模倣した有機溶媒中の反応機構の解明
8			鄭 サムエル	助教	電気化学的CO ₂ 還元法を用いたエタノール合成用ガス拡散電極の開発
9		計算科学	ヘンファサト ポルン コウイ ット	助教	リガンド-タンパク質複合体構造探索のための新規計算手法の開発と創薬への応用

10	東京	工	藤田 貴啓	助教	エピタキシー技術による界面創発磁気輸送現象の高機能化
11		生技	森近 一貴	助教	電気化学反応制御へ向けた表面増強赤外フェムト秒パルスによる多段階振動励起
12		物性研	ヤン ハン	助教	量子物質における創発電磁力学の設計
13		医学	小嶋 良輔	准教授	DARPin と機能性有機小分子色素を活用した activatable 型抗原センサの開発
14		総合文化	中村 優希	助教	資源循環を志向したメソポーラスシリカへの固定化酵素触媒の開発
15	慶應義塾	理工	小川 愛実	専任講師	脳卒中片麻痺患者における机の高さが上肢リハビリテーションに与える影響解明
16	東京工業	理	黄 柏融	助教	二次元有機無機ハイブリッドペロブスカイト材料における電気分極誘導スピン選択現象の開拓
17			山本 和樹	助教	開放系の量子多体不純物問題で探る冷却原子系と固体電子系の橋渡し
18		物資理工	相馬 拓人	助教	“複合アニオンアモルファス半導体”の創製
19	東京医科歯科	M&Dデータ科学センター	清水 秀幸	教授	パーシステントホモロジーと機械学習の融合による抗がん剤探索手法の確立
20	東京農工	工	内田 紀之	特任助教	膜変形リポソームを利用した高効率ウイルスキャリアの開発と創薬への応用
21		グローバルイノベーション	鈴木 龍汰	特任助教	沈殿反応を伴う界面流体力学研究の創成
22	信州	工	浦上 法之	助教	層状窒化炭素薄膜における室温強磁性の発現
23	岐阜	高等研究院	東 小百合	特任助教	アミノ糖誘導体からなる超分子ナノファイバーの人工細胞骨格への応用

24	名古屋	工	市原 大輔	助教	極超音速・低レイノルズ数流れにおける球体空気抵抗モデルの確立
25			大村 修平	助教	鉄の酸化力を起点とする持続可能な精密有機合成法の開拓：医薬品合成を指向した2,3-ジヒドロベンゾフラン類の迅速合成
26			久志本 真希	講師	高効率深紫外半導体発光素子に向けた新規コンタクト層の開発
27	名古屋工業	工	松原 翔吾	助教	シッフ塩基を活用したアジャスタブル分子ケージの創製
28	豊田工業	工	阿南 静佳	助教	共有結合形成により高分子と複合化したMOFの機械的強度の向上
29	豊橋技科大	工	小松 和暉	助教	雑音による非線形性の緩和のOFDM受信機への応用
30	三重	工	名和 憲嗣	助教	高効率スピン軌道トルクに向けた多元系金属の軌道ホール効果の第一原理計算
31	京都	工	石井 順恵	助教	SARシミュレータを用いた3次元地盤変動の推定精度向上に関する研究
32			西岡 季穂	助教	陽極酸化アルミナを用いたリチウム酸素電池の充電過電圧の要因分析
33			杉山 佳奈美	助教	理論化学による窒化ガリウム結晶成長初期過程の機構解明
34		化学研究所	ピンチェラ フランチェスカ	講師	合成漆および混合漆(アジア漆)サンプルの開発と特性評価：新しい持続可能な機能性材料に向けて
35			長尾 一哲	助教	水素ラジカル等価体を用いた分子変換プロセスの開発
36		高等研究院	猪瀬 朋子	特定准教授	光応答性金属有機構造体融合プラズモニクナノワイヤーを用いた単一細胞内物質導入技術開発
37		薬学	南條 毅	助教	N-ハロ化技術を基盤とする難合成非天然型ペプチドの迅速供給法の確立
38		環境安全	堀江 正信	助教	ナノ・ヒーティングによる組織凍結保存技術の開発

39	京都工芸繊維	分子化学	外間 進悟	助教	カーボン量子ドットによる蛍光寿命型の細胞温度計測
40	大阪	基礎工	宇佐見 喬政	助教	メモリデバイス応用に向けた界面マルチフェロイク構造の二値性制御
41			細井 優	助教	一軸圧力印加による負圧領域に隠された反強磁性相の探索
42		工	重光 孟	講師	近赤外光で駆動する超分子光増感剤の開発とセラノスティクスへの展開
43		理	以倉 峻平	特任助教	熱力学的安定性と速度論的運動性の切り分けによる高分子材料の強靱性・分解性・自己修復性の両立設計確立
44		エマーシングサイエンス	古川 可奈	特任助教	力学で挑む気管軟骨の“形”作りメカニズムの解明
45	九州	工	佐伯 龍聖	助教	ダンベル型Ti電極を用いた電鋳・剥離法により作製されたNi基超合金薄板の微小硬度と引張強度特性
46		システム情報	顧 玉杰	助教	大規模医療データの活用効率化と患者の個人情報保護の両立に向けて
47		理	宮田 潔志	准教授	干渉分光を利用した不均一光機能性材料の分光研究
48			松沢 健司	講師	上皮組織の恒常性に関わる細胞外小胞の機能解析
49		先導物質化学研究所	アルブレヒト 建	准教授	青色熱活性化遅延蛍光 dendrimer の創製
50	熊本	先端科学	寺澤 有果菜	助教	高感度イメージセンサ材料の開発

2-1-2. 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、「豊田理研スカラー」を対象に、2016年度から実施している異分野若手交流会を2024年度も開催いたします。

さまざまな分野の研究者に集合していただき、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出の機会を提供していきます。

2024年度も、当年度採択のスカラーに加え、過去のスカラー採択者とのネットワークを構築し、年度を跨いだスカラー間の交流の充実を図っていきます。

交流会概要を表8に示します。

表8. 2024年度 豊田理研異分野若手交流会概要

豊田理研異分野若手交流会			
実施年月	2024年9月3(火)～4(水)	方法	集会方式
場所	ミッドランドホール(ミッドランドスクエア オフィスタワー5階)		
参加者	豊田理研スカラー他、 豊田理研フェロー、企画・運営委員、審査委員 など		
内容	研究紹介プレゼンテーション、ポスターセッション、特別講演、懇親会 など		

2-1-3. 豊田理研スカラー共同研究

(1) スカラー共同研究 Phase1

「豊田理研異分野若手交流会」に於いて、スカラー間に生まれた共同研究の芽を支援する「豊田理研スカラー共同研究 Phase1」を実施いたします。

応募のあった11件の内、審査委員会で採択された10件について、表9に記載いたします。

表9. 2024年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase1 採択候補・・・10件

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋	清水 一憲	准教授	マイクロデバイスを用いた老化血管モデルの構築とラマン分光法による評価技術の確立
	早稲田	杉山 夏緒里	次席研究員 (研究院講師)	
2	神戸	森田 健太	助教	分子凝集をトリガーとする酵素阻害の現象解明と新規創薬分野への展開
	筑波	原田 隆平	准教授	

3	静岡	佐藤 浩平	助教	合成化学と理論計算の融合を起爆剤とする精密設計タンパク質工学の開拓
	筑波	堀 優太	助教	
4	静岡	大多 哲史	准教授	腫瘍免疫環境をリアルタイムで可視化・活性化するがん診断治療法の創成
	京都	三浦 理紗子	助教	
5	岡山	山方 啓	教授	新奇箱型電子受容性分子を用いた光誘起電子移動の実現
	京都	秋山 みどり	助教	
6	豊田工業	渡邊 保真	准教授	イオン伝導性ガラスを用いた超小型人工衛星に搭載可能なタンクレス固体推進機の開発
	名古屋工業	大幸 裕介	准教授	
7	京都	大谷 俊介	助教	生体における精緻なハロゲン結合に着想した有害環境化学物質トラップ分子の創製
	九州	松島 綾美	准教授	
8	立命館	出浦 桃子	准教授	排熱有効利用システムに向けた熱電と蓄電のデバイス融合
	豊橋技科	引間 和浩	助教	
9	早稲田	高山 あかり	准教授	V 族半金属ヘテロ積層薄膜の純スピンの測定
	福井	後藤 穰	准教授	
10	福井	後藤 穰	准教授	トンネル磁気熱抵抗効果の研究
	大阪	石部 貴史	助教	

(2) スカラー共同研究 Phase2

2024年度は、Phase1の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会の評価・選考によりPhase2へと移行します。

Phase2では助成金の追加、メンバーの補充等を行い、

- ・異分野連携型「新研究領域」の創出
- ・グループリーダーの育成
- ・優秀な若手研究者間の人材ネットワークの構築 を目指していきます。

1チーム年間600万円を2年間支援していきます。

2023年度に実施したスカラー共同研究Phase1の10チームの中から、Phase2へ進む3チームを表10に示します。

表 10. 2024 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 進出候補・・・3 件
* チームリーダー

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋	* 田畑 亮	特任講師	植物空腹・指令シグナル分子の機能解明と高機能性成長調整剤の開発
	筑波	重田 育照	教授	
2	大阪	* 大塚 洋一	准教授	多次元脂質分布情報を活かす多変量解析
	名古屋市立	小山 聡	教授	
3	京都	* 菅瀬 謙治	教授	酸化還元状態と共役したタンパク質の液-液相分離の解析と制御を可能にする分子ツールの開発
	名古屋	吉田 紀生	教授	
	岐阜	池田 将	教授	
	豊橋技科	永井 萌土	教授	
	京都	中曽根 祐介	助教	

2-2. フェロー制度

2-2-1. ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

過去に豊田理研スカラークラウド採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」としてサポートしていきます。

募集は 2023 年 2 月 1 日から行い、フェロー選考委員会で選考・審査を行いました。

表 11 に採択されたライジングフェロー3名を示します。2024 年 4 月から年間最大 2,000 万円を最長 5 年間支援していきます。

表 11. 2024 年度 豊田理研ライジングフェロー 採択者・・・3 名

	氏名	研究テーマ
1 年目	大野 真之 東北大学多元物質科学研究所 准教授	アニオンの複合化で拓く固体イオニクス の フロンティア
	後藤 佑樹 京都大学理学研究科化学専攻 教授	ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の 推進
	朴 昭映 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任准教授	生体分子アンサンブルによる機能性核 酸 の開発と創薬基盤プラットフォーム の構築

2-2-2. シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。年間最大 5,000 万円を最長 5 年間助成します。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。

2-3. 特定課題研究

2021 年より特定課題研究の募集を休止しています。

(2021 年 10 月 11 日 第 43 回理事会 承認済み)

2-4. 若手人材育成事業

2-4-1. 海外大学院進学支援

優秀な日本の学生が国内の大学、大学院から博士号(Ph.D.)取得を目的に、海外の大学院進学を目指すことを支援する制度です。2022年度募集から、より広く人材を募集するため、応募条件を拡大、広く募集をいたしました。

- (1) 国際科学オリンピック国内大会一次選考（予選）通過者
（代表選抜大会出場者から変更）
- (2) 国際バカロレア認定校（DP）卒業者（スコア>36以上）
- (3) 大学や財団などによって選抜され、2カ月以上の海外留学、インターンなどを経験した者。但し、単なる語学留学は除く。

選考委員による審査の結果、2023年度に採択された4名を含め、現在10名が留学生活を送っています。

また、準備コース1名も、スピーキング講座などを受講し、現地大学の調査や訪問などの準備・調査を進めています。

表 12. 海外大学院進学支援コース 2024年支援者
＜海外大学院進学コース：留学支援中・10名＞

氏名	山田 啓介
応募時所属	早稲田大学先進理工学部 電気・情報生命工学科 学部4年
留学先	ペンシルベニア大学
留学予定期間	2022年10月～ 2027年9月
応募要件	国際科学オリンピック

氏名	広瀬 凜
応募時所属	東京大学 地球惑星科学専攻 修士2年
留学先	プリンストン大学
留学予定期間	2022年8月～ 2026年7月
応募要件	海外留学

氏名	大滝 理貴
応募時所属	東京大学工学部航空宇宙工学科 学部卒
留学先	シカゴ大学コンピュータサイエンス学科
留学予定期間	2022年9月 ～ 2027年8月
応募要件	海外留学

氏名	釜堀 恵輔
応募時所属	東京大学 理学部情報科学科 学部4年
留学先	ワシントン大学コンピュータサイエンス学科
留学予定期間	2023年9月 ～ 2028年9月
応募要件	海外留学、国際科学オリンピック

氏名	島澤 理
応募時所属	東京大学 医学部医学科 学部 6年
留学先	スタンフォード大学生物学専攻
留学予定期間	2023年9月 ～ 2028年8月
応募要件	海外留学

氏名	南出 光悦
応募時所属	慶応義塾大学 理工学部化学科 学部 4年
留学先	エモリー大学化学科
留学予定期間	2023年8月 ～ 2028年5月
応募要件	海外留学

氏名	蚊谷 光
応募時所属	京都大学理学研究科 学部卒
留学先	ジョージア工科大学
留学予定期間	2023年8月 ～ 2028年8月
応募要件	海外留学

氏名	佐藤 明日花
応募時所属	東京大学 化学生命工学専攻 学部卒
留学先	カリフォルニア工科大学
留学予定期間	2023年9月 ～ 2028年5月
応募要件	国際バカロレア

氏名	堀内 美佑
応募時所属	慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科 学部卒
留学先	ペンシルベニア大学
留学予定期間	2023年9月 ～ 2028年9月
応募要件	海外留学

氏名	前田 清州
応募時所属	東京大学学際情報学府 博士1年
留学先	プリンストン大学
留学予定期間	2023年9月 ～ 2028年5月
応募要件	海外留学

<海外大学院進学コース：留学準備中・1名>

氏名	笹木 宏人
応募時所属	東京大学理学部数学科 学部 4年
留学先	選定中
留学予定期間	2024年9月 ～ 2029年8月
応募要件	国際科学オリンピック

<海外大学院進学準備コース：1名>

氏名	金澤 貴弘
応募時所属	東京大学 理学部物理学科 学部3年
準備活動	スピーキング講座受講、現地大学の事前調査・訪問
応募要件	国際科学オリンピック

なお、2024年の募集に関しましては、2024年2月1日～5月7日までの間で公募を行っており、本年もより多くの学生に門戸を拓けています。

今後続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留学支援終了後の2年間についても若干の追加支援を行っています。

2-4-2. 寄付

若手人材育成を目的に活動している公的機関や財団、組織等の中から、その活動が当財団の目指す方向と合致する場合、その支援のために寄付を行う制度です。毎年、余剰金が見込まれる場合、寄付を検討します。具体的な寄付先、金額等はその都度理事会、評議員会で承認、決議いただく事にいたします。

3. 広報活動

3-1. 豊田研究報告の刊行（第77号）

2023年度在籍のフェロー、客員フェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を記しました。2024年6月に発行いたします。

詳細は、ホームページよりご高覧ください。

3-2. アニュアルレポートの発行

2023年度の財団1年間の活動を掲載したアニュアルレポートを発行します。財団の取り組み、目指すものを分かりやすく記録としてまとめました。

2024年6月に発行いたします。

3-3. ホームページの維持、管理

財団設立趣意書・沿革・公開情報等をまとめた「財団概要」、事業内容の詳細を記述した「事業紹介」、フェローの研究内容・成果を掲載した「フェロー紹介」、公募に関する情報をお知らせする「募集情報」、財団のイベントなどをお知らせする「トピックス記事」等をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。また、更に分かりやすいホームページを目指して改良を進めて参ります。